

研究・調査報告書

報告書番号	担当
368	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol drinking and esophageal cancer risk: an evaluation based on a systematic review of epidemiologic evidence among the Japanese population. 飲酒と食道がんのリスク ; 日本人集団における疫学研究の系統的レビューから	
執筆者	
Oze I, Matsuo K, Wakai K, Nagata C, Mizoue T, Tanaka K, Tsuji I, Sasazuki S, Inoue M, Tsugane S; Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Jpn J Clin Oncol. 2011 May;41(5):677-92.	
キーワード	
系統的レビュー、疫学、飲酒、食道がん、日本人	
要 旨	
目的 : 飲酒は食道がんの重要なリスクファクターと考えられているが、相関の強さは地域によりばらつきがある。そこで、日本人集団における飲酒と食道がんの関係に関する疫学研究を概観した。	
方法 : PubMedの検索を利用したMEDLINEと医中誌の検索結果を研究者が手作業で補完しながらオリジナルデータを得た。共に国際がん研究機関 (IARC) が先に検証した生物学的妥当性である、根拠の強さを“Convincing” (説得力のある、確実)、“Probable” (可能性の高い、おそらく)、“Possible” (そうかもしれない)、“insufficient” (証拠不十分) と分類し、関係の強さを“strong” (強い)、“moderate” (中程度)、“weak” (弱い)、“no association” (関係ない) と分類する評価法によった。そして、4つのコホート研究と9つの症例対照研究を選んだ。	
結果 : すべての研究が飲酒と食道がんの強い正の相関を示した。すべてのコホート研究と6つの症例対照研究が飲酒と食道がんの間に量 (頻度) 反応関係を示した。さらに、4つの症例対照研究が、アセトアルデヒド脱水素酵素Glu504Lys多型が飲酒に関する強い修飾因子であることを示した。	
結論 : 日本人集団では、飲酒は食道がんのリスクを増加させる要因であることはほぼ確実であろう。	